

トレッドミル T655MD

**SportsArt**

**取扱説明書**



ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。  
また、本書は大切に保管してください。

# もくじ

「安全にお使いいただくために」はご使用前によくお読みの上、正しくお使いください。

## はじめに

設置場所について	5
供給電源について	5
各部の名称と付属品について	6
トレッドミル組立方法	7

## 操作方法

操作部、表示パネル部の名称	12
非常停止・安全キー	13
ロングハンドレールの調整	14
プログラムの概要	15
1. クイックスタート	16
2. プログラムモード	17
3. リバースモード	18
4. ブルーステスト	19
脈拍測定・エンターテイメントキャップについて	20

## 調整方法とお手入れ方法

各部のお手入れ方法	21
ランニングベルトの張り調整	22
ランニングベルトの偏り調整	23

## トラブルシューティング




ブレーカースイッチについて	24
エラーメッセージについて	25

## その他




製品仕様・寸法	26
日常・定期点検について	27
日常点検表	28
定期点検表	29
シリコンオイル自動注油システムについて	31
保証書	


# 安全にお使いいただくために

このたびは トレッドミル T655MD をお買い求めいただき、ありがとうございます。  
 ご使用前にこの「安全にお使いいただくために」をよくお読みになり、この製品を正しくお使いください。  
 ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

 <b>危険</b>	誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、かつその切迫の度合いが高い危害が想定される内容が記載されています。
 <b>警告</b>	誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。
 <b>注意</b>	誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

## 図記号の例

	禁止の行為であることを告げるものです。
	警告、注意を促す内容があることを告げるものです。具体的な内容を近くに文章で示します。
	行為を強制したり指示したりする内容があることを告げるものです。

 <b>警告</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 身体に病気や障害のある方はトレーニングを始める前に必ず専門の医師、またはスポーツトレーナーにご相談ください。特に次の病気のある方は、必ず医師にご相談ください。心臓病（狭心症・心筋梗塞など）、高血圧症（降圧剤を服用中の方など）、糖尿病、呼吸器疾患（ぜんそく・慢性気管支炎など）、変形性関節リウマチ、痛風など。）</li> <li>● ご年配の方や運動習慣のない方がご使用になる場合は、医師、またはスポーツトレーナーにご相談ください。</li> <li>● 本機をリハビリテーションの目的に使用される場合は、危険防止のため必ず監督者の下で使用してください。</li> <li>● 操作者および使用者は、手や足、髪、装飾類衣服などをマシンの可動部分に近づけないでください。巻き込まれたり、挟まれたりする恐れがあります。</li> <li>● 電源投入時や再起動する時はランニングベルトの上に乗らないでください。ランニングベルトが急に動き出す場合があります。</li> <li>● マシンの速度を急激に変更しないでください。マシンから落下する恐れがあります。</li> <li>● メンテナンス等で、モーターカバーを外す場合は販売店にご相談ください。内部に高電圧部分があり感電する恐れがあります。</li> <li>● 使用中にお子様などが近づかないように充分にご注意ください。</li> </ul>	

## 危険

- 防爆については、特に考慮して設計されていませんので、可燃性ガス等の発生する恐れのある環境での使用は、引火、火災、爆発の恐れがあるのでお止めください。
- ガス管を使用するアースの使用は、火災、爆発の恐れがありますのでお止めください。
- トレッドミルの近くで可燃性および引火性の気体・液体を使用しないでください。
- トレッドミルの改造は絶対にお止めください

## 注意

### (設置上の注意)

- 水のかからない場所に設置・保管してください。また、熱器具の近くや浴室の脱衣所等の湿気の多い場所への設置は避けてください。
- 湿度、風通し、日光に留意し、ほこり、塩分、硫黄分などにより、悪影響の生じる恐れのない場所に設置・保管してください。
- 使用者がトレーニング中に他の器具に触れないような場所に設置し、本体の後方面は走行速度についていけない場合など待避所として1 m以上空けて設置してください。
- 傾斜、振動、衝撃（運搬時を含む）等、安定状態に注意してください。
- 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に設置・保管はしないでください。
- 電源の電圧、周波数、および消費電力が正しく供給できる場所に設置してください。
- マシンを設置する時にはアースを正しく確実に接地してください。
- コード類が正しく確実に接続されているかご確認ください。
- コード類を取り外す際は正しく持って取り外してください。
- 本機は屋内での使用に限定し、屋外での使用は禁止してください。

### (使用上の注意)

- マシン、および付属品等は次回の使用に支障のないように清浄にしておいてください。
- 電源コードを抜き差しする時は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。電源スイッチを入れたままだと内部の電子基盤などに悪影響を及ぼすこともあります。
- ご使用前に必ずトレッドミルの状況をチェックしてください。
- マシンが正常に安全に作動することをご確認ください。
- マシン、および使用者に異常がないことを常に監視し、異常が発見された場合は直ちに使用者の安全を最優先し、マシンの動作を止める等の適切な処置をしてください。
- マシン、および他の器具等に使用者が触れることがないように注意してください。
- マシンの安全を維持するために日常点検を実施してください。
- マシン、および部品を定期的に点検するようにしてください。
- トレーニングの際は運動に適したシューズ、ウエアを着用してください。
- このマシンの使用体重制限は227kg 以内です。
- 2人乗り、後ろ向きでの走行、自分のレベルを超えた運動、飛び乗り、飛び降りは絶対にしないでください。
- ランニングベルトは定期的に交換が必要です。使用条件、環境にもよりますが、累計使用時間 2,000 時間 を目安に交換してください。ランニングベルトの交換を怠りますと、電子基盤やモーターなどの故障につながります。
- スタート操作をする時は、両足はサイドステップ部に乘せた状態で行ってください。ランニングベルトに乗った状態ですと、急な発進についていけなくなる場合があります。また、ランニングベルトに乗ったまま、作動すると低速発進のため共振音がすることがあります。

## 警告

このマシンをリハビリテーションの目的に使用する場合、危険防止のため、必ず監督者の下で使用してください。

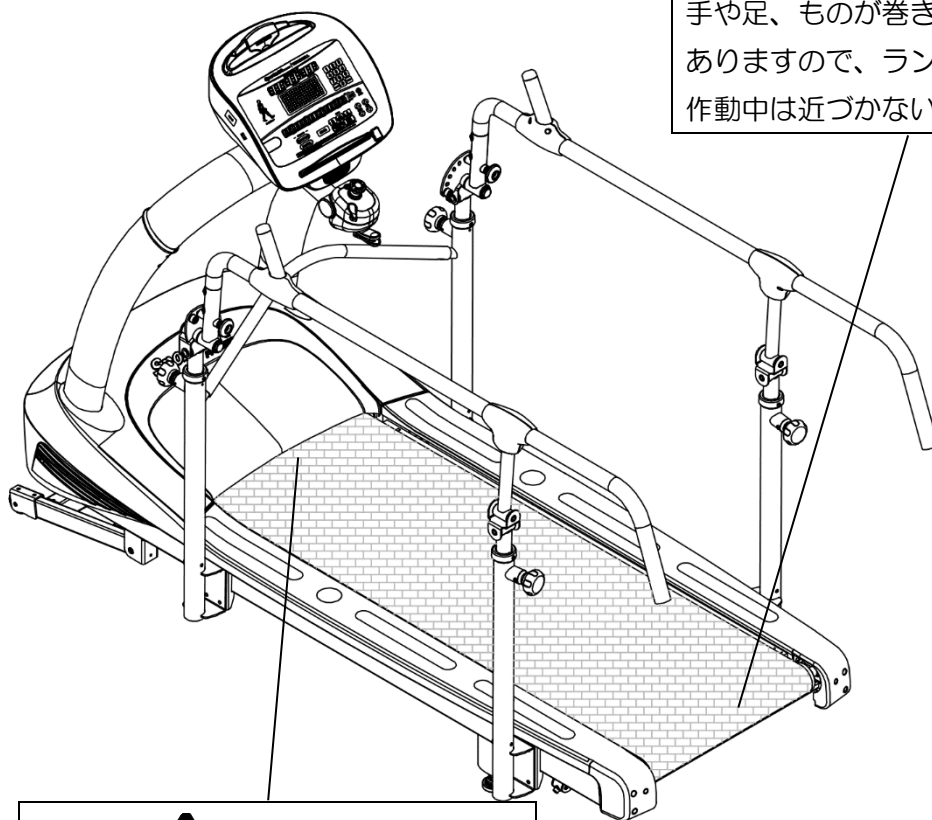
このマシンの走行動作中は事故防止のため、監督者以外をこのマシンに近づけないでください。

## 注意

ストップボタンは高速時での使用は十分に注意してください。

## 警告

手や足、ものが巻き込まれる危険性がありますので、ランニングベルトの作動中は近づかないでください。



## 警告

手や足、ものが巻き込まれる危険性がありますので、ランニングベルト作動中は近づいたり、物を置いたりしないでください。

# はじめに

## ◎設置場所について

- (1) トレッドミルの設置場所は使用者の安全を確保するために十分に広い場所を設け、トレッドミルの周囲、特にその後部には使用者の転倒に備えて厚手のマット等を敷き、事故防止が配慮されている場所をお選びください。  
なお、このマシンは液体の進入や可燃性ガスに対する防爆を考慮しておりませんので、水のかからない、また可燃性雰囲気ではない場所で使用してください。  
また環境条件として、室温、および湿度は四季を通じて、できる限り一定に保つようにしてください。
- (2) トレッドミルは重量がありますので、荷重に耐えうる水平な床面に設置してください。設置条件が悪い場合には共振による騒音、および振動等が発生したり、ランニングベルトに偏れが生じたりしますので、注意してください。

## ◎供給電源について

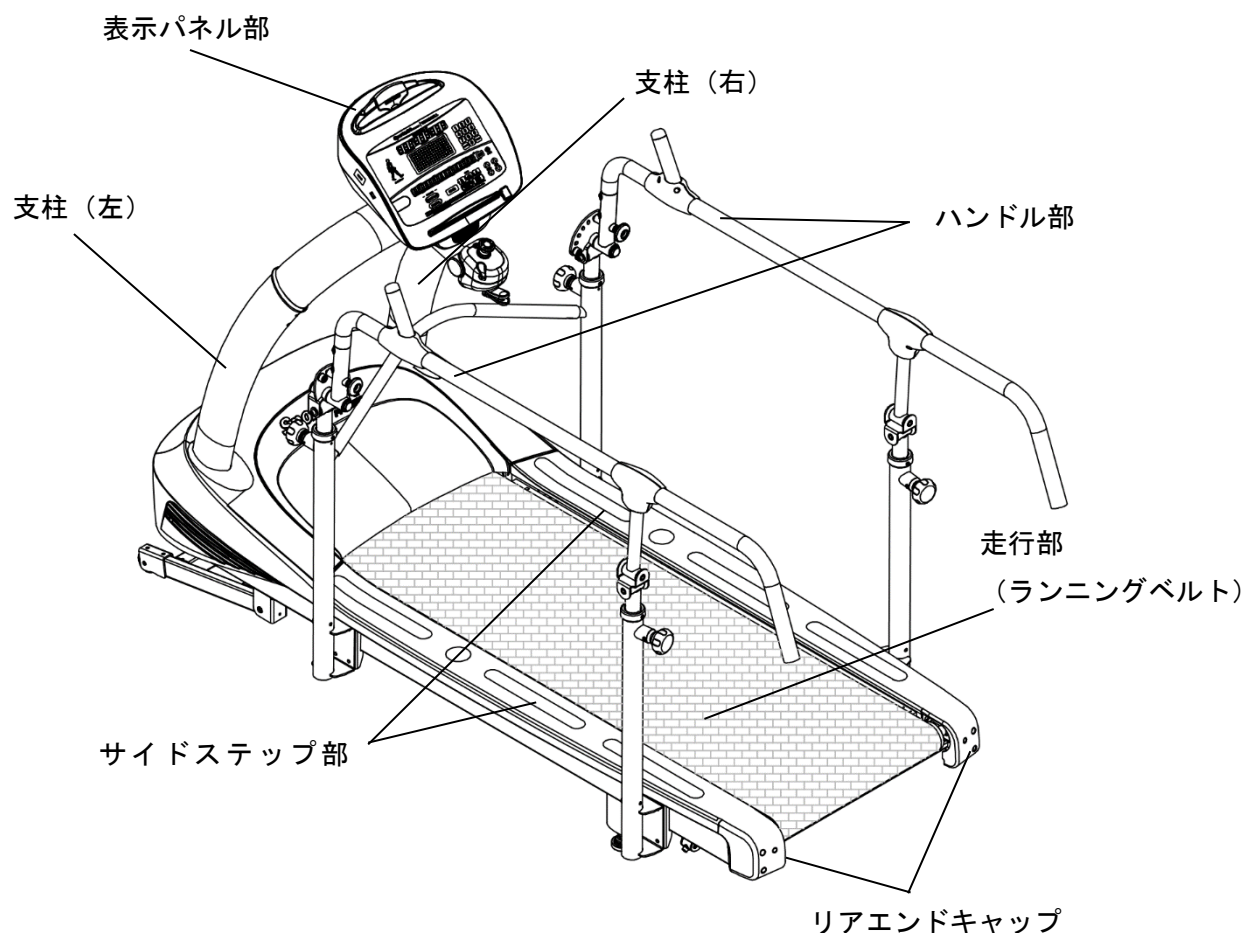
トレッドミルは稼動時に大電流を消費するため、容量を考慮して専用の AC100V 電源ラインのコンセントを用意してください。トレッドミルの最大 15A です。  
また、電源コードは延長ケーブル、テーブルタップ等の中継コードを介さず、必ず専用壁面のコンセントに付属の電源コードを用いて差し込んでください。  
(1つのシステムのコンセントには1台のトレッドミルとなるのが望ましいです。)


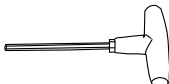
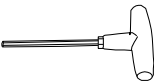

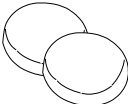
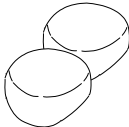
※電源コードは本体の下をくぐらせないように配線してください。やむを得ず、本体の下をくぐらせる場合は、移動用キャスター等に挟まないようにお願いします。

### 注意

アースは必ず接地してください。アースを接地しないと外部ノイズ等の発生によりマシンに異常な現象を起こす場合があります。アースを接地しない場合の故障は保証の対象外となる場合があります。

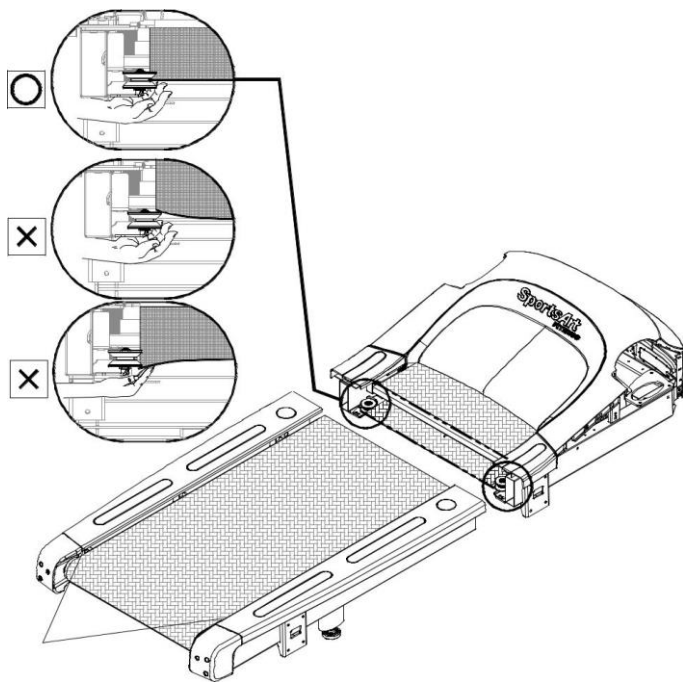
# 各部の名称と付属品について



<p>A ドライバー</p> 	<p>B T型レンチ (6mm)</p> 	<p>C T型レンチ (4mm)</p> 	<p>D 安全キー</p> 	<p>E ボルトキャップ (平型)</p> 
<p>G ボルトキャップ (波型)</p> 				

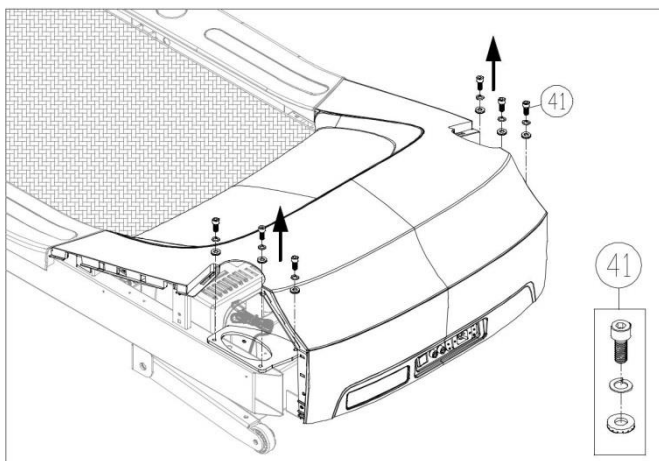
※ご使用前に安全キーがセットされているかご確認ください。  
セットしていないと作動しません。

# 製品の組立方法



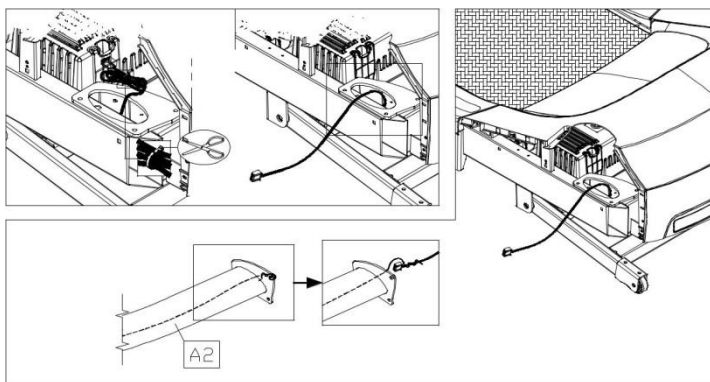
- ① 左図のように左右のアライメントローラーの真ん中溝にランニングベルトが入っているかを確認してください。

※あらかじめ出荷時には点検はしておりますが、念のためご確認ください。



- ② モーターカバー左右を取り外します。ネジを左右2本ずつ、外してください。

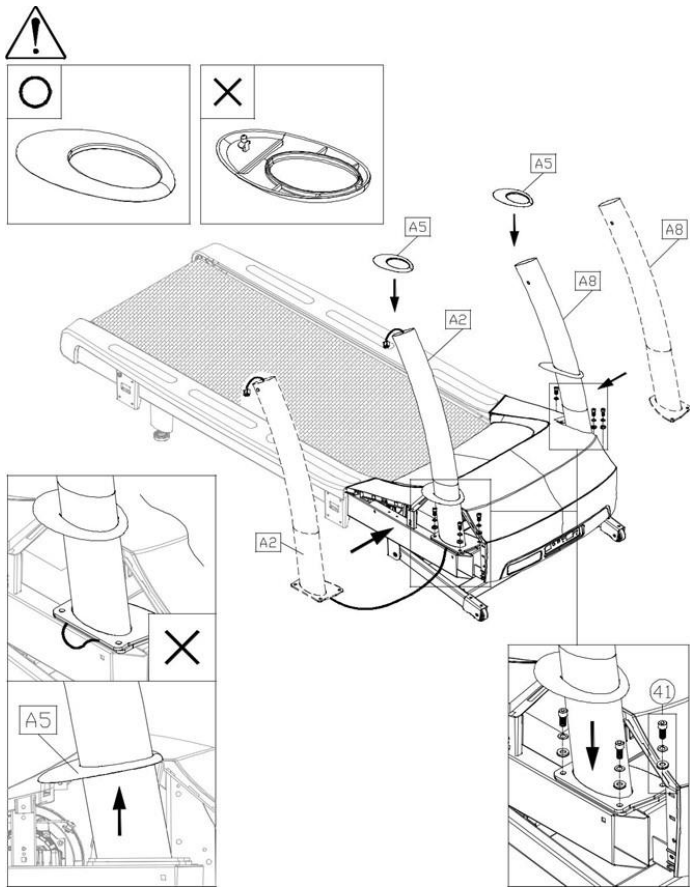
- ③ 次に、ボルト・ワッシャー【部品④1】を左右3組ずつ、取り外してください。



- ④ 接続ケーブルを留めているケーブルタイを切断し、ケーブルを伸ばして下さい。

支柱（右）A2の中に補助導線が、通っているので、導線下部と接続ケーブルの先端を軽く結び、上側に引っ張り込んでください。





⑤支柱を取り付けます。

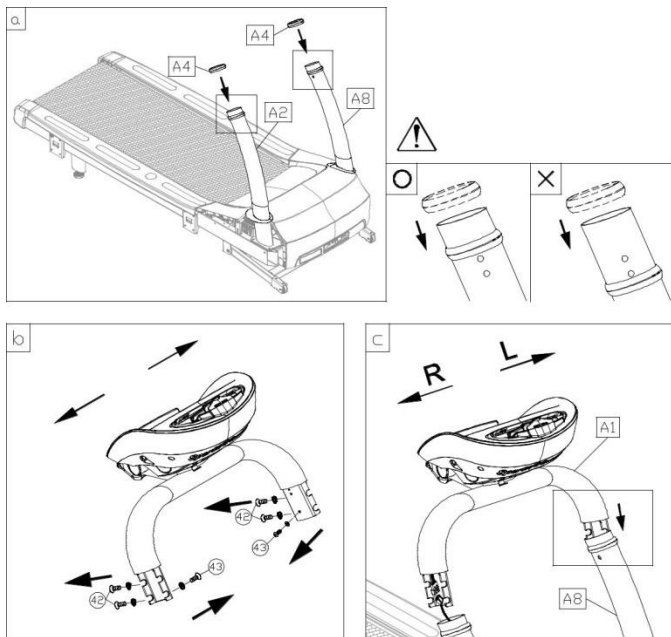
支柱右側【A2】の中に接続ケーブルが通してありますので、はさまないように注意して、ボルト・ワッシャー【部品④1】で取り付けます。

※ボルト類は、まだ仮止め状態にしてください。

⑥左側も同様に仮止めで取り付けます。

※防水キャップ【A5】左右1個ずつありますので、図のように挿入してください。

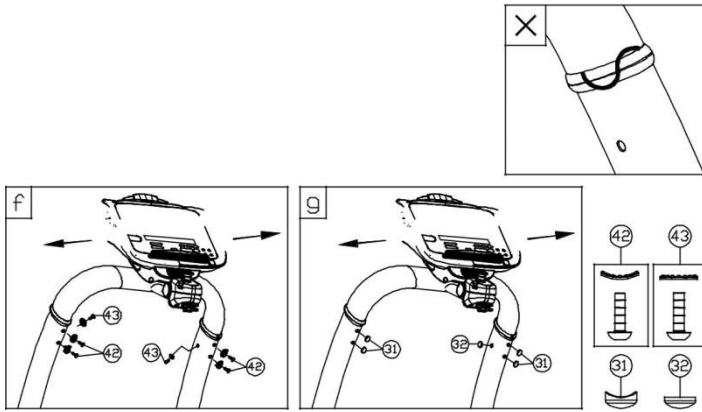
支柱（右側）の上側から、接続ケーブルが出るようにします。



⑦支柱カバー(A4)を取り付けます。

⑧仮止めされている表示部の取付部のボルト・ワッシャー【部品④3】を外し、表示部を取り付けてください。

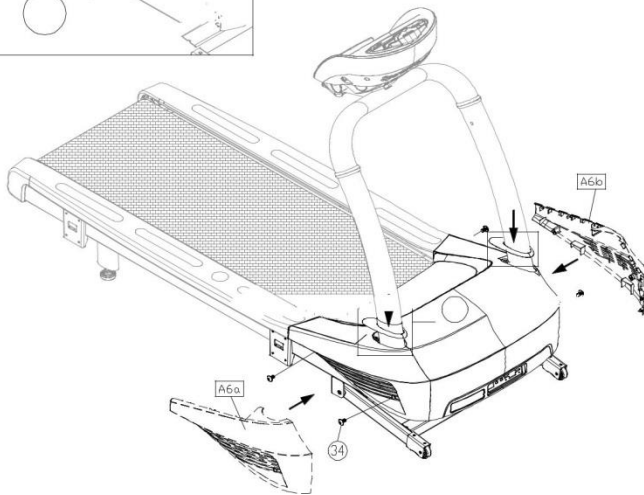
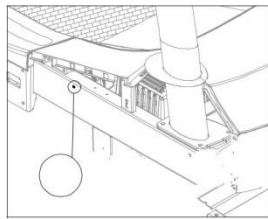
※防水キャップを忘れていないかを再度確認ください。



⑨表示部を取り付けます。

ボルト・ワッシャーで締付ける前に、ケーブルを挟み込んでないことをご確認ください。

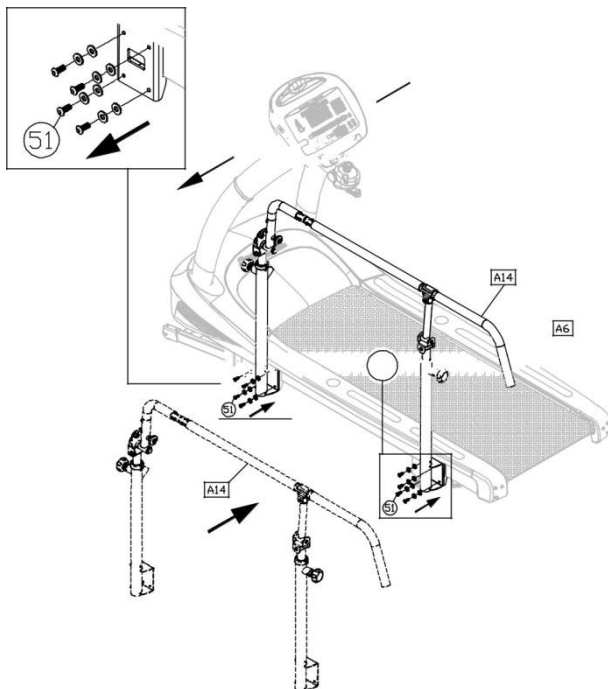
全てのボルトを取り付けできたことを確認した後、強く締め付け固定します。



⑩モーターカバーを取り付けます。

付属工具のパッキンに入っているネジで固定します。

左右ともに、確実に固定されているか、ご確認ください。



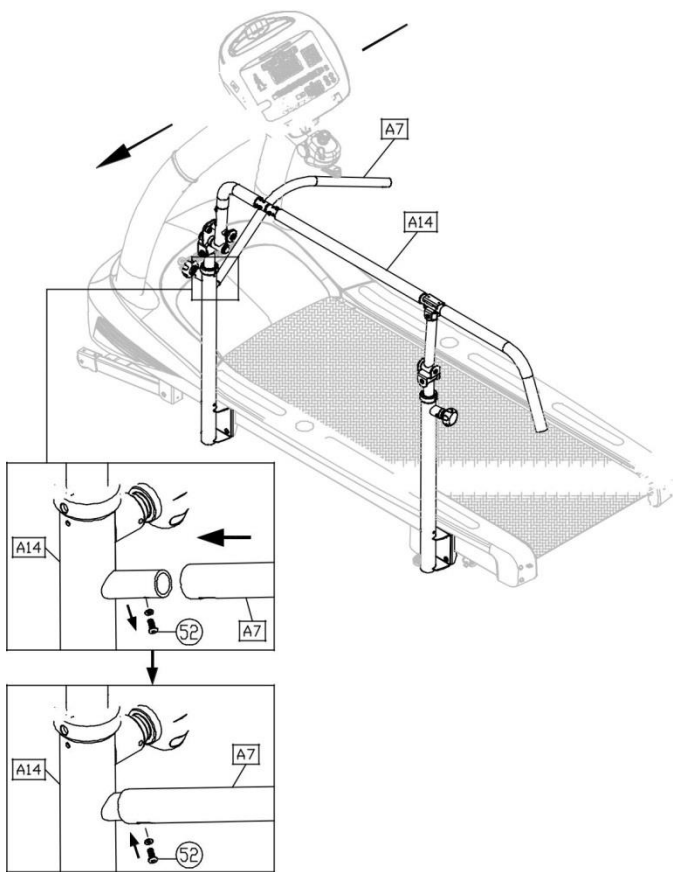
⑪ロングハンドレールを取り付けます。

ハンドレール左側(A14)を取り付けます。

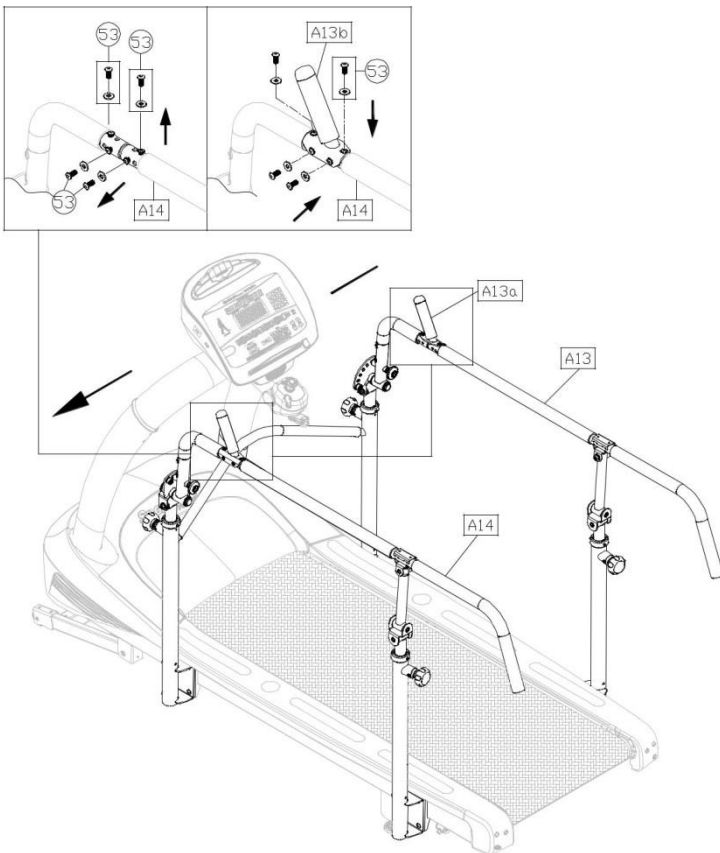
ハンドレール取付部に仮止めされているボルト・ワッシャー【部品51】を外します。

ハンドレールを取付位置にセットし、先ほど外したボルト・ワッシャーで固定します。

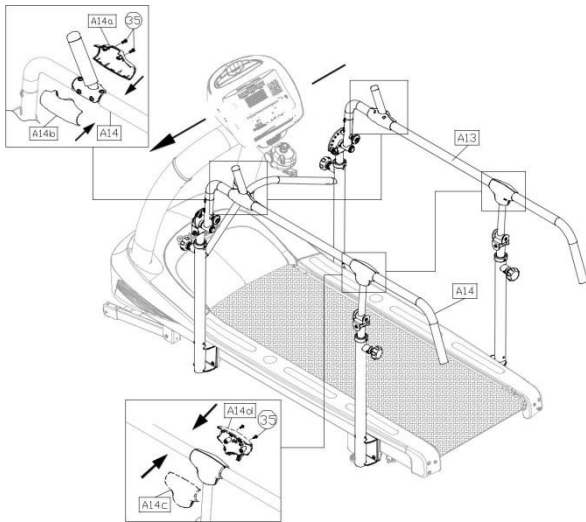
同様にハンドレール右側(A13)も取り付けます。



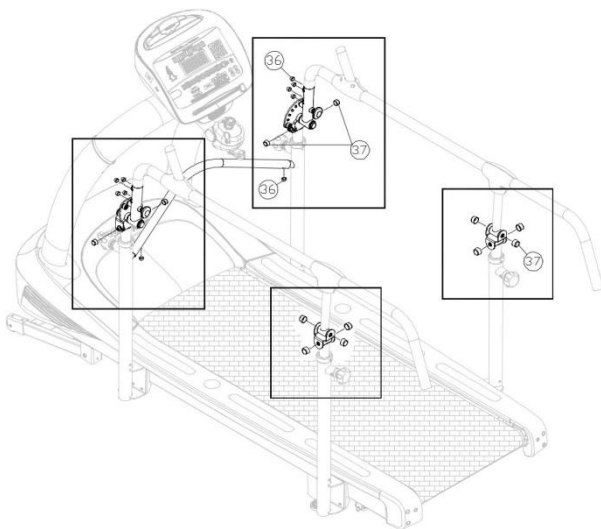
- ⑫フロントサポートバーを取り付けます。  
 左右のロングハンドレールを外側に  
 ずらし、フロントサポートバーを  
 取り付けます。  
 左右をボルト・ワッシャー【部品 52】  
 で、固定します。



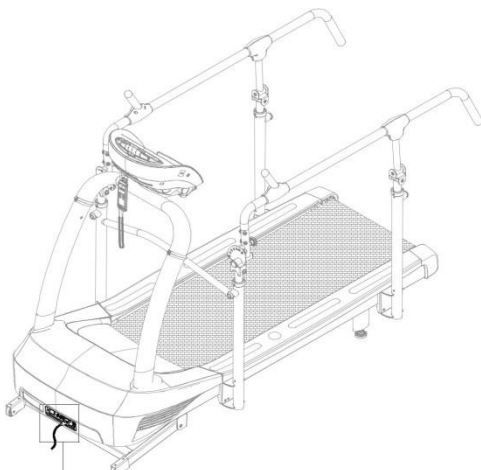
- ⑬ロングハンドレールにハンドルバー  
 (A13 a、A13b)を取り付けます。  
 仮止めされているボルト、ワッシャー  
 (53)を取り外します。  
 ハンドルバーを取り付け、確実に固定し  
 ます。



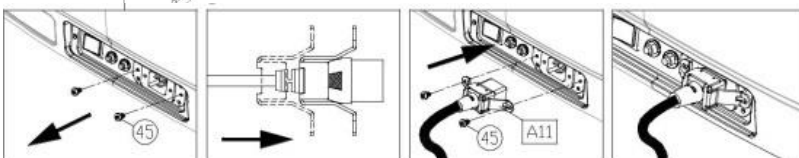
- ⑭ハンドルカバー取り付けます。  
 ハンドルカバー前(A14 a,b)と  
 ハンドルカバー後ろ(A14c,d)を取付け  
 ます。  
 左図のように、フロントサポートバー  
 (A7) を取り付けます。  
 カバーを組み合わせて、ネジ(35)で  
 固定します。



- ⑮ネジカバー(36、37)を取り付けます。



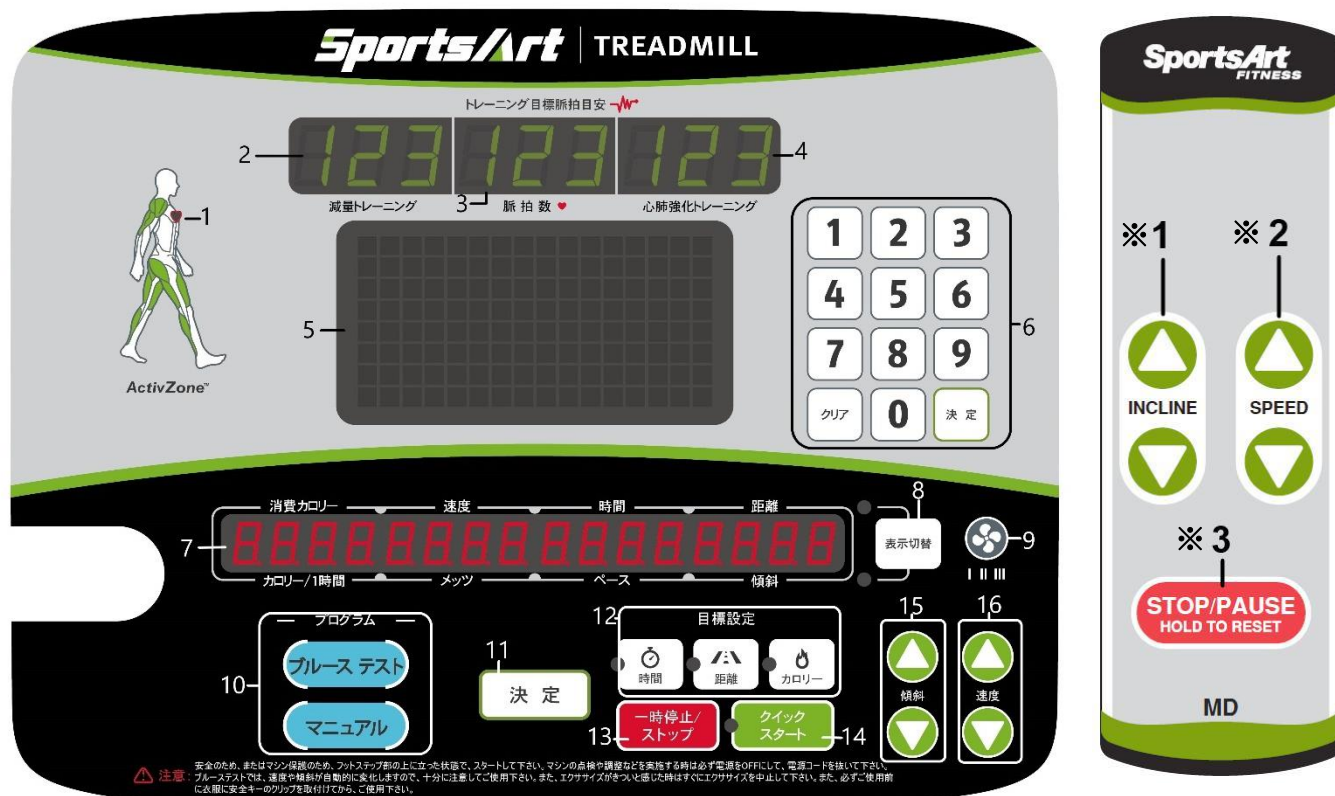
- ⑯電源コードを接続します。  
 本体に仮止めされているネジ④⑤を取り  
 外します。  
 電源コード金具(A11) をネジ④⑤で固定  
 します。



以上で、組立ては完了です。

# 操作方法

## ◎操作部、表示パネル部の名称



①心拍数インジケータ	心拍数送信ベルトが、検出されるとLEDが点灯します。
②減量トレーニング	推奨される最小値を表示します。
③脈拍数	現在の心拍数を表示します。(脈拍送信機装着時)
④心肺強化トレーニング	推奨される最大値を表示します。
⑤インフォメーション	プログラム・パターンを表示します。
⑥数値ボタン クリアボタン	0~9 数値入力に使用します。 入力した数値を0にします。
⑦表示部	カロリー・速度・時間・距離・傾斜等の数値を表示します。
⑧表示切替ボタン	動作中に表示の切替を行う。
⑨ファンボタン	ファンの速度を変更します。(低→中→高→停止)
⑩プログラムボタン	ブルーステスト、マニュアルプログラムを選択します。
⑪決定ボタン	各種設定時の確認をします。
⑫目標設定ボタン	目標項目の選択時に押します(時間・距離・カロリー)
⑬※③一時停止/ストップ	運動中一時停止したい時や、解除したい時に使用します。 停止中、2秒間押し続けると現在のモードが中止され、初期状態に戻ります。
⑭クイックスタート	設定を省略して、運動を開始するプログラムです。
⑮※①傾斜ボタン	傾斜角度の変更時に使用します。
⑯※②速度ボタン	走行速度の変更時に使用します。

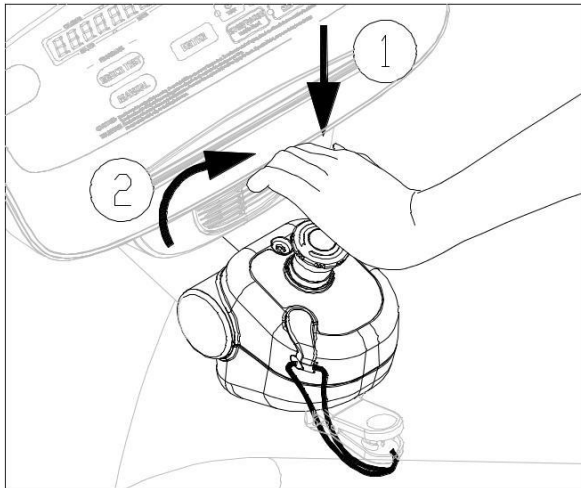
※①②③有線リモートコントロールパネル

## ◎非常停止・安全キー

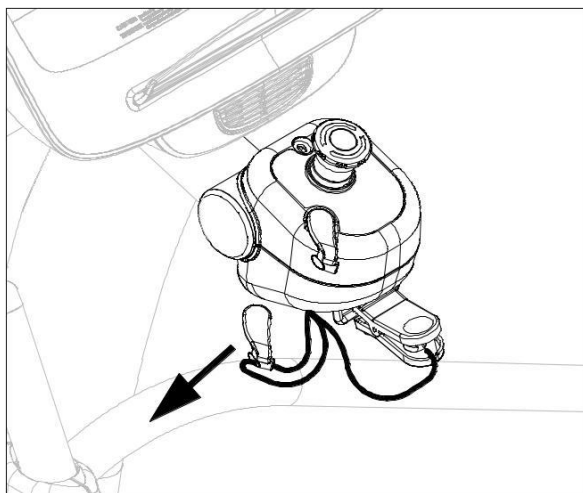
この製品には安全機構が組み込まれており、不測の事態や突然の変化が発生した場合にパッシブモードを停止し、機器を迅速に停止することで、作動中の事故を防ぎます。安全機構が作動すると、メッセージウィンドウに「SAFE-TYKEY STOP」と表示されます。この時点で製品は動作を停止します。

安全機構は以下の条件によって作動する

- (a) 非常停止ノブ：機器を緊急停止するには、赤い非常停止ノブを下方方向に押します（図の 1 を参照）  
安全機構を無効にするには、矢印の方向に従い、赤いノブを時計回りに回して緊急状態を無効にします（図の 2 を参照）



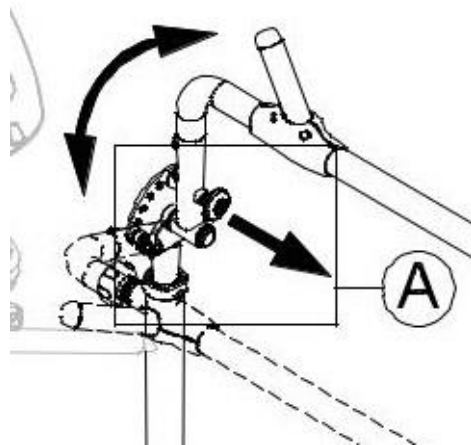
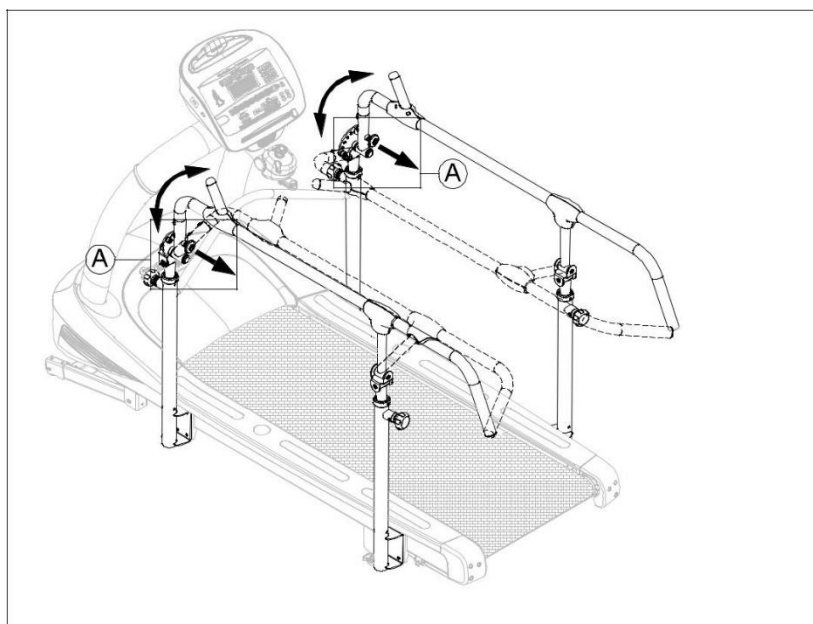
- (b) 安全キー：「安全キー」を溝から外すと、すぐに安全機構が作動します（図を参照）  
安全機構を無効にするには、安全キーを元の溝の位置に戻して、緊急状態を無効にします。



## ◎ロングハンドレール調整方法

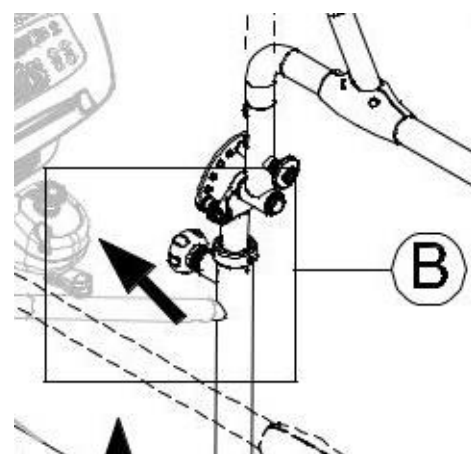
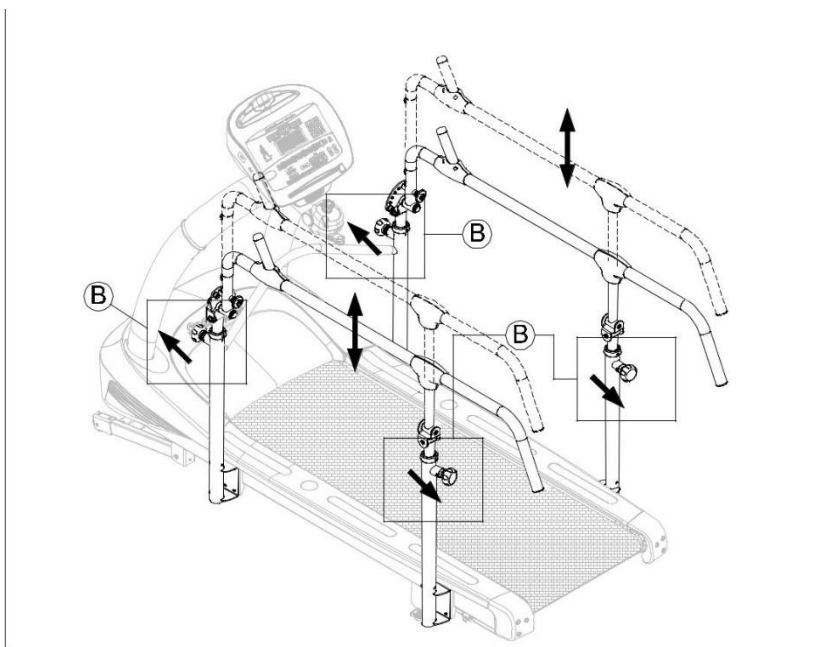
### 幅調整

領域 A のノブを外側に引き、長い手すりを希望の位置に移動します。  
解放すると、ハンドル位置を固定します。



### 高さ調整

長い手すりの高さを調整するには、領域 B のノブを外側に引き、長い手すりを希望の位置に移動します。解放すると、ハンドル位置を固定します。



# プログラムの概要

## 1. クイックスタートモード

クイックスタートモードは個人データ（年齢、体重）の入力を省略して、すぐにエクササイズができるモードです。簡単に始めることができますが、消費カロリーなどの数値はあらかじめマシンに登録されている初期数値（年齢 35 才、体重 75kg）での算出となります。消費カロリーなどのデータをより実際の数値に近づけたい場合は設定モードをご利用ください。

## 2. 設定（マニュアル）モード

設定モードでは目標項目（時間、距離、カロリー）の設定個人データ（年齢、体重）の入力を行います。年齢、体重を入力しますと、トレーニングの目標脈拍目安が表示されます。エクササイズの前に年齢、体重などを設定します。消費カロリーなどの数値がより実際の数値に近づきます。設定モードのみの運動プログラムもあります。

## 3. リバースモード

ランニングベルトが、後方に歩いたり走ったりするために回転します。

## 4. ブルーステスト

ブルース、ジャーキン、ファイヤーファイターの体力テストを行うことができます。テスト終了後、スコアが表示されます。各段階で自動的に速度及び傾斜率を調整し負荷を段々増加します。100 点満点の評価です。

※あくまで、ゲーム的なテストになりますので、体力診断としては使用できません。



# 1. クイックスタート

## 1-1 クイックスタートモード選択

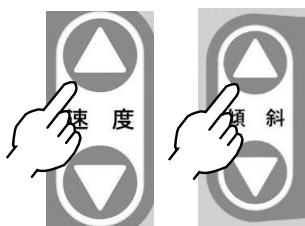


簡単操作のクイックスタートモードです。デモ画面の時にクイックスタートボタン、または速度ボタンを押します。

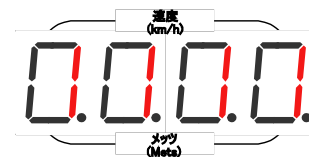
## 1-2 ランニングベルトスタート

3……2……1……とカウントダウンが始まり、「ピー」という音とともにランニングベルトが動きます。

## 1-3 速度、傾斜を入力



任意で走行速度、傾斜角度の変更を行います。  
ウォーキングの目安は3~5km/h、  
ジョギングは10km/h以上を目安としてください。  
個人差がありますので、ご自分の体力などに  
合わせて設定してください。



数値入力ボタンで走行速度の入力をダイレクトに設定することができます。数値入力ボタンを押していくと1の位から順にスライドしていきます。設定したい速度を入力し、決定ボタンを押すと速度が変わります。  
例) 10.2km/hに設定の場合は1、0、2→決定ボタンです。  
数値入力ボタンにて速度を変更する場合は、急に走行速度が変わるので十分にご注意ください。(入力速度を誤った場合など。)

## 1-4 エクササイズ終了

マシンを停止させる時は、ストップボタンを押します。  
ストップボタンを押すと、一時停止の状態となります。  
一時停止の状態で、ストップボタンを押すと、累積データが表示されます。  
もう一度ストップボタンを押すと、リセットです。

## 2. 設定（マニュアル）モードの方法

### データ入力までの流れ

#### 2-1 設定モード選択

初期画面の時に「マニュアルボタン」または「目標設定ボタン」を押し、決定キーを押します。

※ここで、「目標設定ボタン」を押すとマニュアルモードでの設定になります。

#### 2-2 目標項目の設定



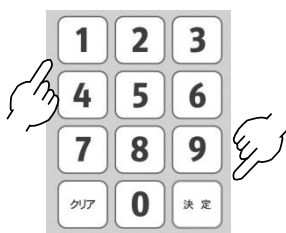
目標設定ボタン ①時間 ②距離 ③カロリーを押します。

①時間の場合【5～300分】

②距離の場合【0.1～99.9km】

③カロリーの場合【100～999KCAL】

【 】内の範囲で、入力可能です。



数字入力ボタンで入力し、「決定」で確定します。

#### 2-3 年齢入力

年齢の入力を行います。

数値入力ボタンまたは、傾斜/速度ボタンで入力し決定ボタンを押します。

#### 2-4 体重入力

体重の入力を行います。

数値入力ボタンまたは、傾斜/速度ボタンで入力し決定ボタンを押します。

#### 2-5 目標脈拍設定



最高脈拍値の設定を行います。

40-250の範囲で入力します。

数字入力ボタンで入力し、「決定」で確定します。

次に、速度ボタンを押すと、

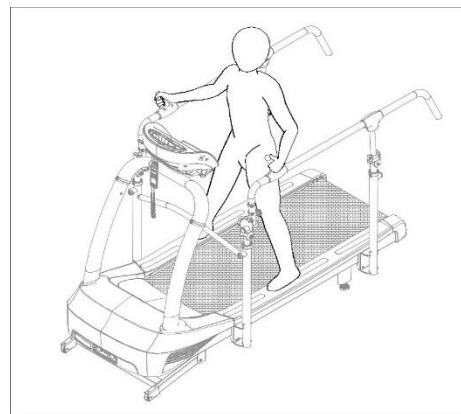
3……2……1……とカウントダウンが始まり、

「ピー」という音とともにランニングベルトが動きます。

※途中で、エクササイズを中止する時は、ストップボタンを押してください。

# 3. リバースモードの方法

リバースモードは、ベルトが逆方向に開始するように準備してください。プログラムが始まる前に、右図のようにサイドレールに足を置いて運動を開始してください。



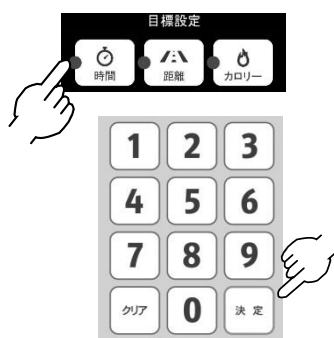
## データ入力までの流れ

### 3-1 プログラム選択



初期画面の時に「マニュアルボタン」2回押します。インフォメーションに「リバースモード」と表示されます。決定ボタンで確定します。

### 3-2 目標項目の設定



目標設定ボタン ①時間 ②距離 ③カロリーを押します。

- ①時間の場合【5～300分】
  - ②距離の場合【0.1～99.9km】
  - ③カロリーの場合【100～999KCAL】
- 【 】内の範囲で、入力可能です。

数字入力ボタンで入力し、「決定」で確定します。

### 3-3 年齢入力

年齢の入力を行います。  
数値入力ボタンまたは、傾斜/速度ボタンで入力し決定ボタンを押します。

### 3-4 体重入力

体重の入力を行います。  
数値入力ボタンまたは、傾斜/速度ボタンで入力し決定ボタンを押します。

### 3-5 目標脈拍設定



最高脈拍値の設定を行います。  
40-250 の範囲で入力します。

数字入力ボタンで入力し、「決定」で確定します。

次に、速度ボタンを押すと、

- 3……2……1……とカウントダウンが始まり、
- 「ピー」という音とともにランニングベルトが動きます。

## 4. ブルーステストの方法

### データ入力までの流れ

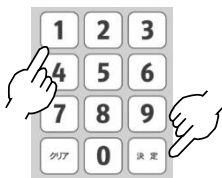
#### 4-1 プログラムモード選択



初期画面の時に「ブルーステスト」ボタンを押してください。  
決定ボタンで確定します。

「ブルーステスト」を押す度に、1=BRUCE 2=GERKIN  
3=FIRE FIGHTER が切り替わりますので、  
お好みのテストを選択し、決定します。

#### 4-2 年齢入力



年齢の入力を行います。年齢を入力します。  
数値入力ボタンまたは、傾斜/速度ボタンで入力し  
決定ボタンを押します。

#### 4-3 体重入力

体重の入力を行います。体重を入力します。  
数値入力ボタンまたは、傾斜/速度ボタンで入力し  
決定ボタンを押します。

#### 4-4 目標脈拍表示



年齢、体重を入力しますと目標脈拍目安に数値が表示されます。  
準備ができましたら、速度ボタンを押すと、スタートします。  
ブルースは21分間、ジャーキンは21分間、ファイヤーファイターは14分間のテストを行います。途中でトレッドミルの速度や傾斜角度が自動で変化しますので、十分に注意してテストを行ってください。

テストが終了し、クールダウンが終わりますとスコアが表示されます。  
100点満点中の〇〇点というスコアです。

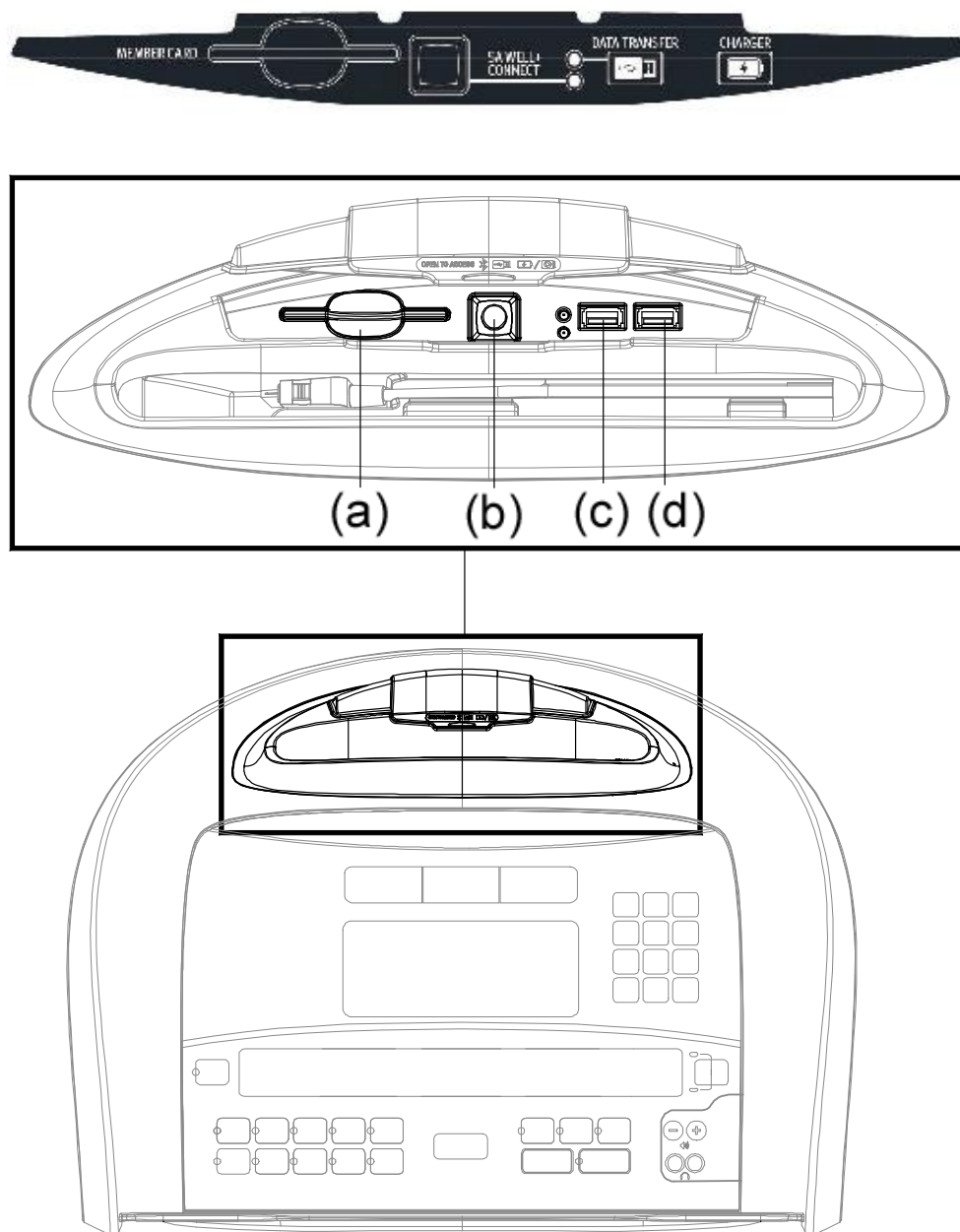
※ブルーステストですが、体力を診断するテストではなく、あくまで遊び的なテストです。  
一般的なトレーニングの目安として、ご利用ください。  
また、脈拍の測定が必要ですので、POLAR社製の心拍送信 T34 チェストベルトをご使用ください。

## ◎脈拍測定について

脈拍数を知りたい方は POLAR 社製の心拍送信 T34 チェストベルトをご使用ください。

## ◎表示部上部のエンターテイメントキャップについて

「エンターテイメントキャップ」を開けると下図のようになっています。  
将来的に、マシンを使用されるときに運動管理などのツールとして、  
お使いいただけるようになります。



- (a) SA WELL+といわれる運動管理システムのメンバーズカードをスロットです。
- (b) ブルートゥース/WIFI コネクションボタン スマホやタブレットと連携する時に使用。
- (c) データ用 USB 端子 マシンのロムバージョンの更新などに使います。
- (d) 充電用 USB 端子 スマホなどの充電用に使います。

# 各部のお手入れ方法

マシンを長くお使いになるために次のようなお手入れ方法を実施してください。

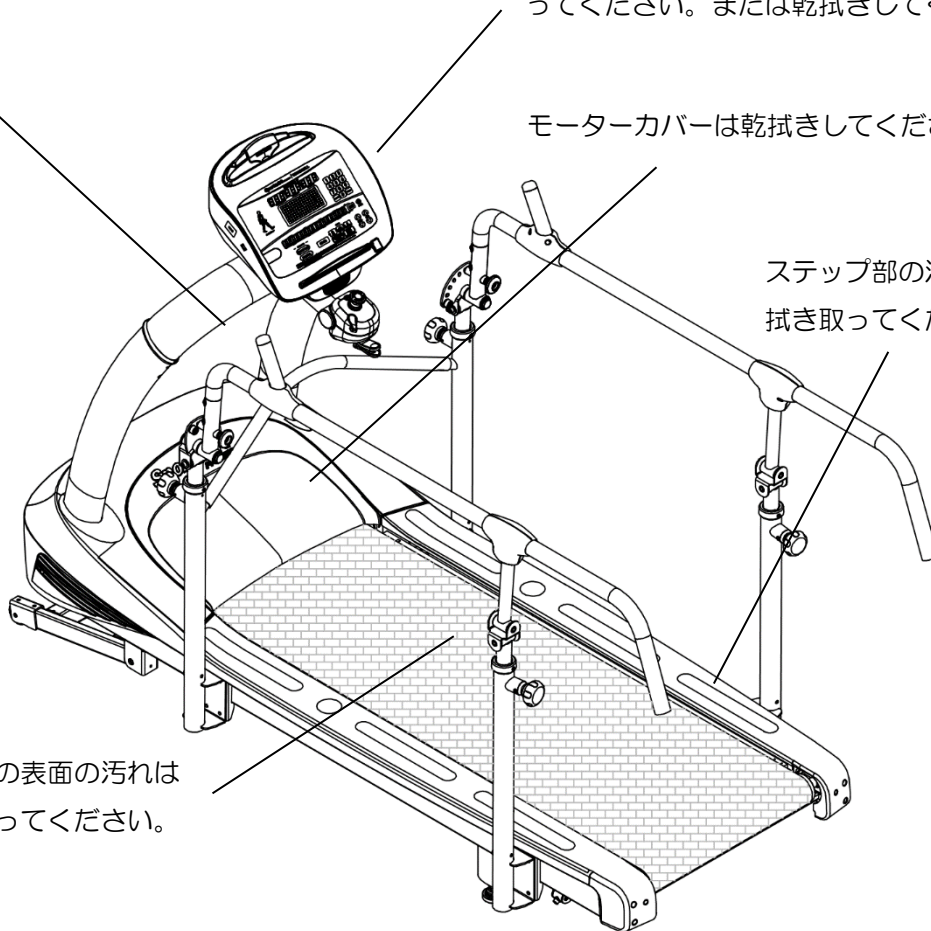
手すり部分は使用毎に汗などを乾いた布で拭き取ってください。

表示部の汚れは薄めた中性洗剤などで拭き取ってください。または乾拭きしてください。

モーターカバーは乾拭きしてください。

ステップ部の汚れは中性洗剤で拭き取ってください。

ランニングベルトの表面の汚れは中性洗剤で拭き取ってください。



## ◎ランニングベルトの裏面とランニングデッキの表面の清掃について

最低 1 ヶ月に 1 度はランニングベルトを緩めて、ランニングベルトの裏面とランニングデッキの表面を乾いた布などで乾拭きしてください。

### 注意

中性洗剤以外の洗剤を使用された場合、色の退色や溶解、変形などが生じる場合がありますので、中性洗剤以外のご使用はお止めください。

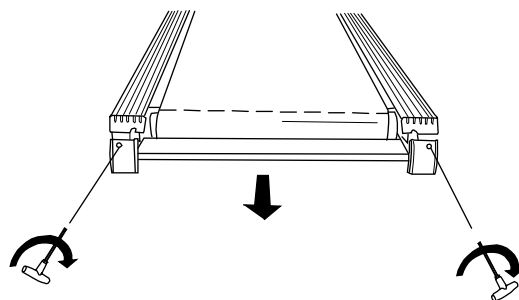
ランニングデッキ・ランニングベルトの裏面は特殊処理しておりますので、洗剤や潤滑油（CRC など）のご使用はお止めください。

# 調整方法とお手入れ方法

## ◎ランニングベルトの張り調整

ランニングベルトの張りが緩いと走行中にランニングベルトがスリップ（モーターは動くがベルトが止まってしまう症状）して、大変危険です。

逆にランニングベルトを張りすぎると、前後のローラーのベアリングに無理がかかり、電子部品やモーターに負担がかかり、故障の原因となります。下記の方法で適切な張り調整を行ってください。



- ① 付属のランニングベルト調整用の六角レンチをランニングベルト調整ボルトに差し込み、ランニングベルトを一旦緩めます。
- ② 走行速度2km/h程度に設定して、左図のように手すりを持って足を踏ん張り、ランニングベルトを止めるように足で踏んばって止めるようにしてください。
- ③もし、ランニングベルトが止まったら、ランニングベルトの張りが弱いので、少し両サイドを同じくらい時計回りに回します。
- ④ ②、③を繰り返し実施して、ランニングベルトが止まらなくなる状態まで張ります。

## 危険

ランニングベルトの張りが緩いとモーターが作動しているのにランニングベルトが一瞬止まってしまう、ランニングベルトがスリップしてしまいます。使用者が転倒する危険がありますので、適切に張り調整をしてください。ランニングベルトの張りが強すぎると、モーターや前後のローラーに負担がかかり、異音などの発生原因となります。また、ランニングベルトの裏面の消耗が早まり、必要以上の負荷がモーターや電子基盤などにかかり、故障の原因となりますので、ご注意ください。

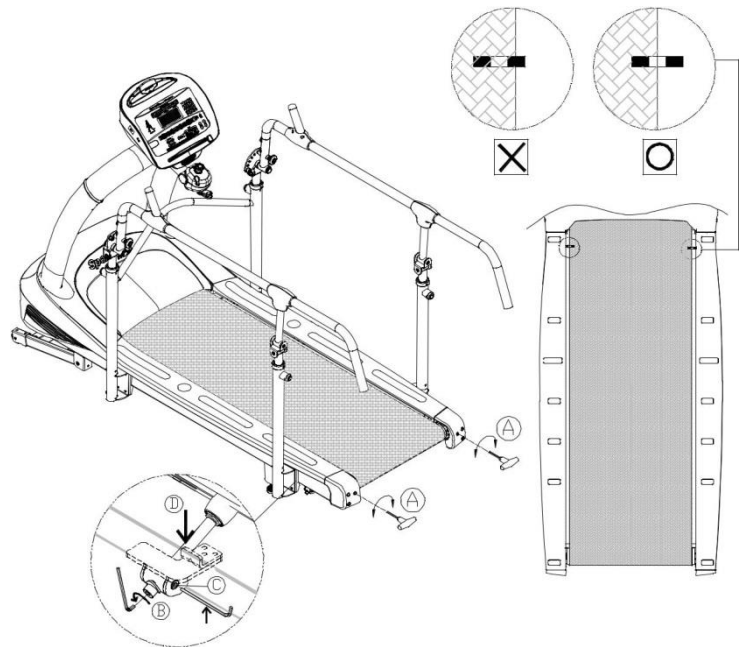
## ◎ランニングベルトの偏り調整

基本的にフロントローラーとリアローラーが完全に平行になっている場合は偏りません。

もしも、左右いずれかに偏りが発生する場合は下記の要領で偏り調整ゲージの緑の範囲内で収まるように調整してください。

- ランニングベルトが右側に偏る場合  
マシンを作動させて、基本的には偏る方向の（この場合は右側）の調整ボルト時計回り方向に90°ずつ回して変化を確認しながら引っ張りを繰り返してください。  
逆の方向に偏る場合は回しすぎですので、反時計回しに戻してください。

- ランニングベルトが左側に偏る場合  
マシンを作動させて、左側の調整ボルトを時計回りに回して引っ張りを繰り返します。  
逆の方向に偏る場合は回しすぎですので、反時計回しに戻してください。



もうひとつの方法としてはランニングベルトの偏る方向と逆のボルトを反時計回しに回して緩めることもできます。どちらの方法でも構いませんが、ランニングベルトの張りすぎには十分に注意ください。

注) 次の場合はランニングベルトの調整をしても偏りの調整はできません。

- ① 設置している場所が水平ではない場合  
床面が水平ではない場合は低い方向へランニングベルトが偏ります。  
なるべく水平な場所へ設置し、やむを得ず、水平でない場合は床面アジャスターでマシンが水平になるように調整してください。
- ② お体の不自由な方（特に足の不自由な方など）が使用する場合  
両足のけり足の力が均一でなく、どちらかの足の力が強い場合、ランニングベルトはいずれかの方向に偏る場合があります。
- ③ アライメントローラーがランニングベルトから外れている場合  
ランニングベルトを緩め、P7.製品の組立方法①を参照し、ランニングベルトの張り調整を行ってください。

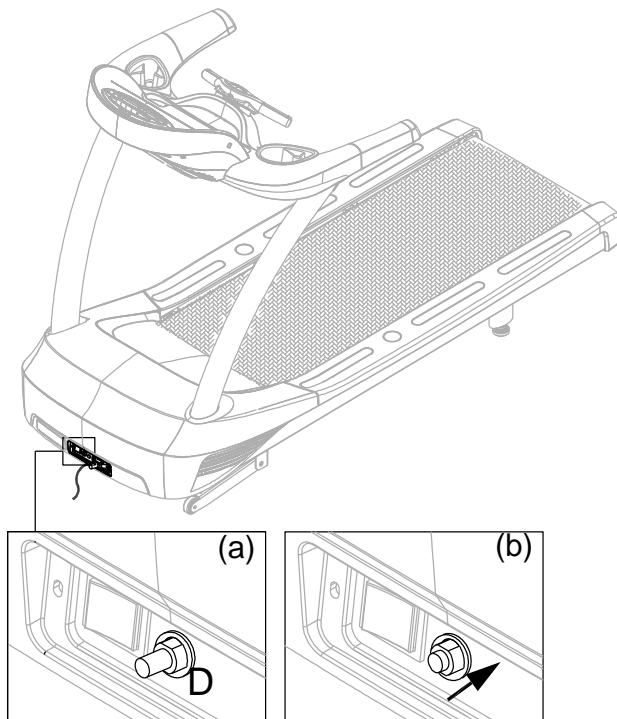


# トラブルシューティング

## ◎ブレーカースイッチについて



ブレーカースイッチが下図 (a) のように外側に飛び出した状態の時は、電源スイッチをOFFの状態にしてください。



1. 電源スイッチをOFFの状態、(b)のように中に押し込んでください。  
電源が入る場合は、しばらく空回し状態で、走行チェックを実施してください。

電源が入らない場合や、上記の走行チェックで再度(a)の状態になる場合は、販売店様にご相談ください。

# エラーメッセージについて

もしも、トレッドミルが動かなくなった時は表示パネル部にエラーメッセージが表示されます。一度、電源を切り、3分後に再度電源をONにしてください。それでもエラーメッセージが表示される場合は下記を参考にお願いします。

コード	意味	内容（対応策）
エラー1_1_	モーター関連エラー	モーターのエンコーダーの故障が考えられます。一度電源を切って、しばらくしてから、再度入れ直して下さい。
エラー1_2_	モーター関連エラー	モーターが熱を持っています。速度は通常の半分に制限されます。走行ベルト、走行板などの摩耗が原因が考えられます。
エラー1_3_	モーター関連エラー	トレッドミルが急に加速しました。一度電源を切って、しばらくしてから、再度入れ直して下さい。
エラー2_1_	ドライブボード基盤エラー	ドライブボード基盤のIGBT電流値が高いです。一度電源を切って、しばらくしてから、再度入れ直して下さい。
エラー2_2_	ドライブボード基盤エラー	ドライブボード基盤が熱を持っています。速度は通常の半分に制限されます。
エラー2_3_	高電流エラー	ドライブボード基盤内のセンサーが高電流を感知しています。一度、電源を切って、しばらくお待ちください。
エラー3_1_	傾斜モーターエラー	傾斜モーターのキャリブレーションが狂っています。
エラー4_2_	電圧供給エラー	電圧供給が低下しています。一度電源を切って、しばらく経過してから、再度入れ直して下さい。
エラー4_3_	電圧供給エラー	電圧供給が高すぎます。一度電源を切って、しばらく経過してから、再度入れ直して下さい。
エラー8_1_	接続通信エラー	マシンの電源を入れた時、制御基盤とドライブボード基盤との間に接続通信エラーがあります。
エラー8_2_	接続通信エラー	エクササイズ中に、制御基盤とドライブボード基盤との間に接続通信エラーがあります。
エラー8_3_	接続通信エラー	ドライブボード基盤のMCUが接続通信エラーです。一度電源を切って、しばらく経過してから入れ直してください。

## 表示部に何も表示されない場合

1. 電源スイッチが入っていることを確認してください。（電源が入っていると点灯します。）
  2. 電源プラグがコンセントに確実に差し込まれているか確認してください。
  3. 建物のブレーカーを確認してください。
  4. メインヒューズ（15A）が切れていないか確認してください。
  5. 組み立てられた箇所のケーブルコネクタをチェックしてください。
- 上記の4つを確認していただいて、それでも表示されない場合は販売店にご相談ください。

## 電源スイッチは点灯しているが表示部が表示されない場合

ドライブボード（モーターカバー内の電子基盤）が故障している可能性がございます。その際は、販売店様にご相談ください。

## 注意

メーカーより依頼されたメンテナンス作業員以外の方は、モーターカバーを絶対に開けないでください。  
(メーカーより指示のある場合を除きます。) もしも許可なくカバーを開けて、故障が発生した場合は保証の対象外となる場合があります。

### ◎製品仕様

- ①走行速度 0.2km/h～20.0km/h (0.1km/h 刻み)  
リバースモード-0.2～-5.0km/h (0.1km 刻み)
- ②傾斜角度 -3～22% (0.5%刻み)
- ③時間計測 0～99min 59s
- ④距離計測 0～99.99km (0.01km ステップ)
- ⑤停止装置 磁気マグネット式 緊急ストップ式
- ⑥駆動方式 交流モーター制御方式
- ⑦電源電圧 100V 50/60Hz 15A / 200V 50/60Hz 10A

### ◎寸法

- 本体 長さ 2410×幅 1015×高さ 1505mm  
重量 192kg
- 有効走行面サイズ 幅 560×長さ 1570mm

## マシン設定モード

- 1、初期画面で「表示切替」ボタンを約 3 秒間長押しします。
- 2、「キロ/マイル」の選択をします。 選択し、決定で確定。
- 3、使用制限時間 (分) の設定をします。  
①「Y/N」 ②時間入力し、決定で確定。
- 4、省エネになるまでの、時間 (分) を設定します。  
時間を入力し、決定で確定。
- 5、言語選択をします。(例、JAPANESE =日本語)

※ここで設定した数値は、次回更新するまで、登録されます。

# 日常・定期点検について

トレッドミルを安全に機能・性能等の信頼性を維持するためにこのページに記載してある使用前の「日常点検」と「定期点検」は使用不可欠なことです。保守点検の欠如により事故が発生した場合は、当社が責任を負えないことがありますのでご注意ください。

## 危険

- 装置を分解しないこと

装置の内部には高電圧部分があり、万が一手を触れますと感電して危険です。  
絶対に分解しないでください。

- 物、水等を入れないこと

コネクタや本体内部に水、金属、燃えやすいものを入れないでください。  
火災や感電、事故の原因となります。

点検前にはトレッドミルを清掃してください。汚れのひどい時は、中性洗剤を含んだ布を固く絞って拭き取った後、乾いた布でよく乾拭きしてください。

### 「日常点検」

日常点検は日常点検記録表に従って、毎日実施してください。

### 「定期点検」

定期点検は定期点検記録表に従って、実施してください。

定期点検は少なくとも6ヶ月毎に、実施してください。

「日常点検」「定期点検」において不具合が発見された時は、不具合の内容を当社までご連絡ください。

「保守点検契約」に関するお問い合わせについては、販売様にご相談ください。

# 日常点検記録表

管理 NO

項目	点検項目	判定基準	合否	要修理	
視覚的 点検	コード類 消耗品 付属品	1 電源コード	キズ、破損はないか		
		2 取扱書の保管	規定の場所に保管してあるか		
		3 その他			
	外観	1 外装のキズ、割れ、変形、錆	破損などがないか		
		2 銘板、シールなどの剥れ、汚れ	表示が確認できるか		
3 フレームなど		破損などがないか			
4 ランニングベルト		磨耗、両端のほつれがないか			
5 その他					
機械的 点検	本体	1 走行部	動きがスムーズで異音などがないか		
		2 傾斜部	動きがスムーズで異音などがないか		
		3 その他			
コード類	1 電源コード	コンセントの保持力に問題はないか			
	その他				
電気的 点検	性能	1 ストップボタン	正常に停止するか		
		2 リセットボタン	全ての表示が0表示になるか		
		3 速度ボタン	スムーズに表示が上下するか		
		4 傾斜ボタン	スムーズに表示が上下するか		
		5 各種動作モード	各種動作モードが確実に設定できるか		
		6 その他			
清掃、消毒	1 清掃、消毒				
その他					
総合判定					

機種名	スポーツアートトレッドミル	型式	SportsArt T655MD
設置場所		製造 NO	
点検日時		購入年月日	
点検責任者		承認	

# 定期点検記録表

管理 NO

項目		点検項目	合否	要修理	
視 覚 的 点 検	外 観	1 取扱説明書が保管されているか			
		2 電源コードに破損・キズはないか			
		3 電源コードのコンセントへの保持力はOKか			
		4 アースの接地はOKか			
		5 設置場所の条件（直射日光・ほこり・振動・床面等）は良いか			
		6 外装の破損・変形・錆などがないか			
		7 表示パネル部の表示部に汚れや破損、文字欠けなどがないか			
		8 表示パネル部の操作部に汚れや破損などがないか			
		9 ランニングベルトの偏り、張りは適当か			
			その他		
機 械 的 点 検	外 部 内 部 点 検	1 ランニングベルト（裏面）に汚れ・破損がないか			
		2 本体や手すりなどに亀裂・破損などがないか			
	内 部 点 検	1 走行板に汚れ・くぼみ・キズ・破損などがないか			
		2 駆動ベルトの張りは適切か、磨耗していないか			
		3 電源スイッチ・ヒューズホルダーに破損はないか			
		4 電源スイッチは点灯するか			
	機 械 的 点 検	機 械 的 点 検	1 各ボルト・ナットの脱落や緩みはないか		
			2 前後ローラーの固定は確実か、異音はないか		
3 カーボンブラシが磨耗していないか、キズはないか					
		その他			
性 能 点 検	作 動 点 検	1 ストップボタン			
		2 速度△▽ボタン			
		3 傾斜△▽ボタン			
		4 各種プログラムボタン			
		5 最高速度で異音がしないか			
		6 傾斜装置の0%はOKか			
		7 傾斜装置に異音はないか			
			その他		
電 気 的 点 検	作 動 点 検	1 供給側電圧測定（AC）			
		2 電源コード側消費電流値測定（AC）			
清掃、消毒		1 清掃、消毒			
総合判定					

1	1日のおおよその使用時間			時間
2	1週間に何回使用するか			回/週
3	消耗部品など交換した部品を記入してください			
	○部品名	( )	交換実施日	年 月 日
		( )	交換実施日	年 月 日
		( )	交換実施日	年 月 日
		( )	交換実施日	年 月 日
		( )	交換実施日	年 月 日
		( )	交換実施日	年 月 日

使用状況の確認表

機種名		型式	
設置場所		製造 NO	
点検日時		購入年月日	
点検責任者		承認	

# シリコンオイル自動注油について

定期メンテナンスはトレッドミルの性能及びフィットネス設備の性能を保つために重要なものです。

メンテナンスを実施することにより、より長く製品を使用することができます。

本製品はランニングベルトへの定期的な注油を自動的に実施するシステムを搭載しています。

※注入メンテナンス周期は 初回時のみ 5km/5cc 注油、2 回目以降は 200km 毎/2cc の注油です。

自動注油ボトル（400cc）が空になると電源を入れるたびにピープ音が発生するようになります。

その際は、トレッドミル本体のモーターカバーを開き、シリコンオイル自動注油システムの表示画面にメッセージ CH oil(CHANGE OIL)が表示されているかどうかをご確認ください。

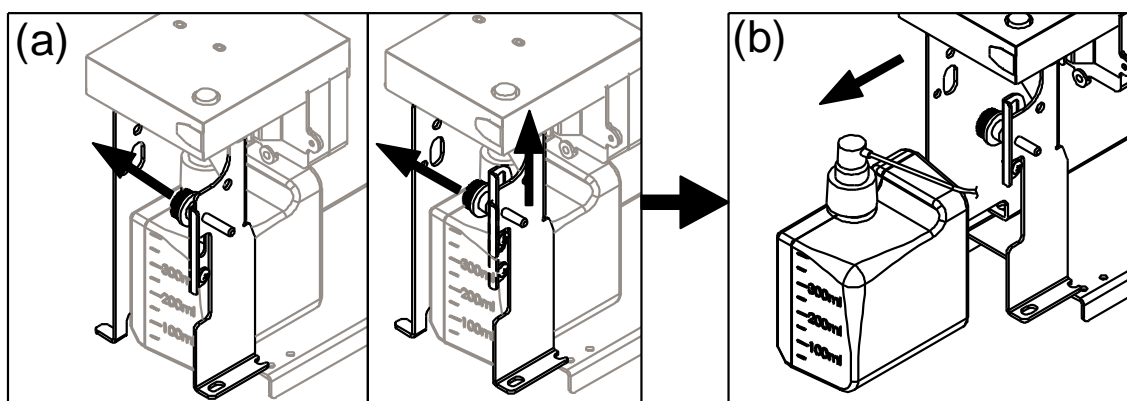
その際はシリコンボトルの交換が必要となります。

※このシステムは、トレッドミル本体表示と連動しておりません。

## 注油ボトルの交換方法について

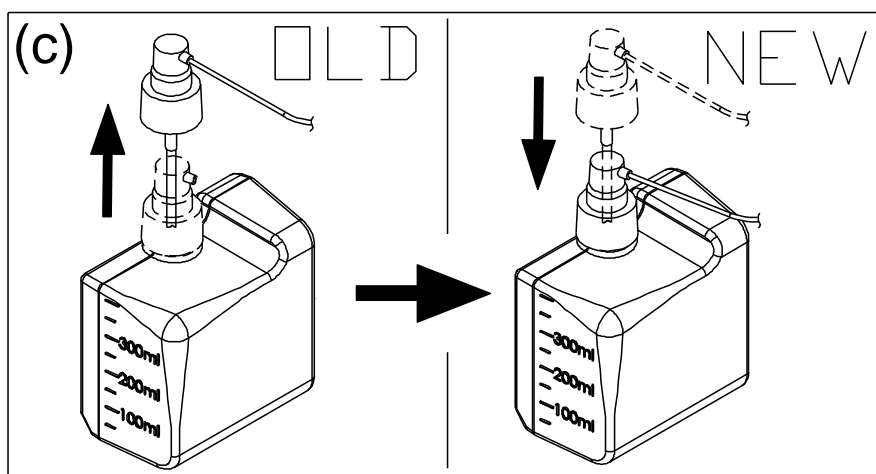
- 1、まず始めにトレッドミル本体の電源スイッチをOFFにします。

前部のモーターカバーを固定しているネジを外し、モーターカバーを全て取り外します。



- 2、(a) のように、ボルトを緩めて上に押し上げてください。

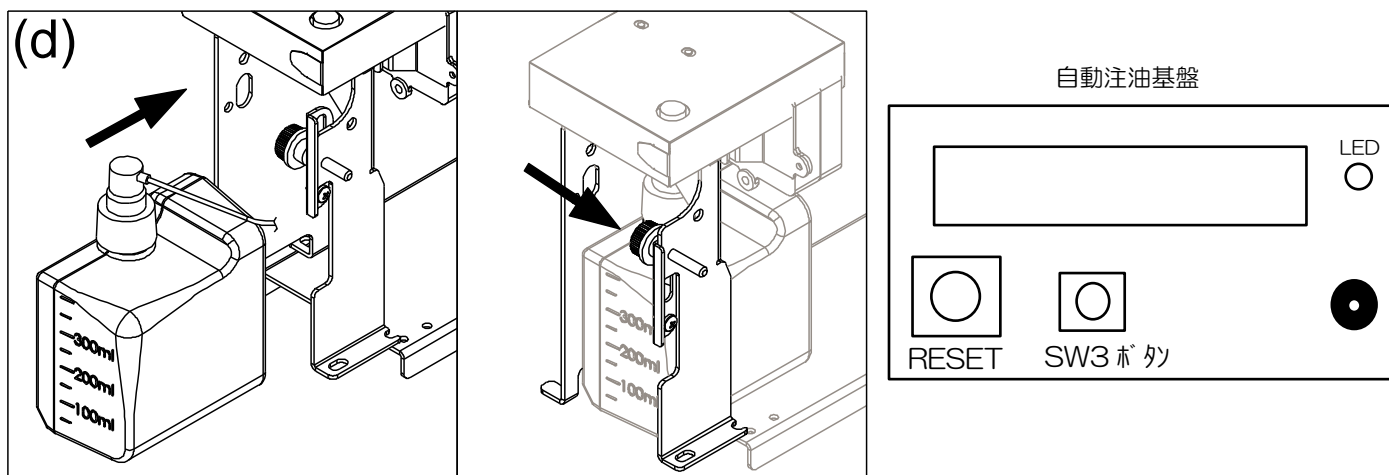
- 3、(b) のように古い注油ボトルを取り外してください。



- 4、古いボトルのノズルを取り外し、新しいボトルに取付けます。

- 5、新しいボトルにノズルを取付けたら2、3回ポンプを押してください。





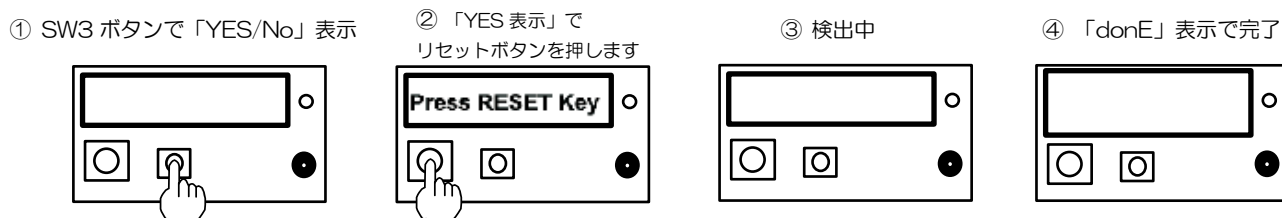
6、新しいボトルを元の場所にセットし、ボルトを締めて固定します。

7、トレッドミル本体の電源スイッチをONにします。

すると自動注油システムの画面に” CH oil(チェンジオイル)” の表示がされますので

下記の手順で自動注油基盤のリセットを実行してください。

(※シリコンオイルボトルを交換したことで、基盤の総走行距離を 0km に戻す必要があります。)



①リセットボタンを3秒間程長押しすると、「YES/No」の選択画面が表示されます。

(SW3 ボタンで「YES/No」の選択が出来ます)

② 「YES 表示」でリセットボタンを押してください。

③ 画面表示に「detect」と表示されましたら、検出中となります。

④ 「donE」と表示されたら完了です。

※シリコンボトルを交換しないのであれば、SW3 ボタンで” NO” を選択し

リセットボタンを押してください。すると総走行距離が表示されます。

上記の作業が完了しましたら、モーターカバーを元に戻し、電源を入れ直してください。

以上で、作業は完了です。

注油システムエラーメッセージについて

※下記のメッセージが表示されましたら、販売店様にご相談ください。

Err. 01 EEProm

<Err. 01>

<EEPROM>

エラー1：システムメモリが故障しており自動注油できません。

Err. 02 Motor

<Err. 02>

<Motor>

エラー2：モーター故障かシステム機能エラーが発生しております。

# 保証書

本保証書は下記の保証期間ならびに保証条件にしたがって、無償修理することをお約束するものです。この保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。

製品名	スポーツアートトレッドミル
製品番号	SportsArt T655MD
製造番号	

お買い上げ日： 年 月 日

お名前
ご住所
電話番号

保証期間はお買い上げの日から1年です。

販売店

ご購入後、ご記入願います。ご記入のない場合、保証が受けられない場合があります。

- 1、取扱説明書の注意に従った正常な使用環境と使用状況で、万一品質上の不具合が発生した場合において、消耗品を除き納入後1年間原則として販売店が保証修理いたします。
- 2、保証修理は補修、または部品の交換により実施し、これにより取り外された不具合部品は株式会社フジモリの所有物となります。
- 3、出張修理の場合は出張費を請求する場合がありますので予めご相談ください。
- 4、保証修理をお受けになる場合には製品保証書の提示が必要となります。
- 5、保証期間内においても保証書の掲示がない場合は、無償修理の対象になりませんので、保証書は大切に保管してください。
- 6、保証期間内であっても、次の場合には有償修理にての修理となります。
  - ・ 誤用、乱用および取扱いの不注意によるもの。
  - ・ 株式会社フジモリが認めた技術者以外によって修理や改造をしたとき。
  - ・ 火災、水害、地震、落雷およびその他の災害、戦乱、争乱によるもの。
  - ・ 部品の通常の磨耗や経年劣化によるもの。
  - ・ 運送途中、備え付け時と使用時に生じた傷、色の退色、および外見上の変化。
  - ・ 機能に影響のない感覚的現象（音、振動等）
- 7、その他の保証対象免責事項
  - ・ 運送、販売の作業によって引き起こされた費用（備え付け、撤去にかかわる費用）
  - ・ 取扱説明書の遵守に従わない使用によって起きたあらゆる損害。
  - ・ 保証期間内中でも、使用できなかったことによる期間損失等の費用。
- 8、当社の全責任はすべての環境下で本体の出荷価格を超えることはありません。なお、製造物責任法にかかる係争においては富山地方裁判所高岡支部を第1審裁判所と致します。
- 9、製品は日本国内の屋内施設の使用に限定し、この保証規定は日本国内の使用に限り有効です。



輸入代理店

**株式会社フジモリ** フィットネス事業部

本社：〒933-0838 富山県高岡市北島186

URL <http://fujimori-r.com>

●修理やアフターサービス、各種お問い合わせは

TEL TEL: (0766) 21-0958

FAX TEL: (0766) 21-0957

URL <https://fujimori-r.com/fitness/contact/>





***Sports/Art***